

今生こんじょうの間あいだに — 安身立命あんじんりゆうみょう 普あまねく自他じたを利りするなり — (十版)

諸悪莫作しよあくまくさ 衆善奉行しゆぜんぶぎよう 自淨其意じじようぎい 是諸佛教ぜしよぶつぎよう 七佛通誡偈しちぶつづうかいげ

この国くにむかし過あやまつた

世よのため人ひとのためなりを

限かぎりをつけて考かんがえた

さらにお国くにのためなりと

全体主義ぜんたいしゆぎ

わたくし殺ころして公おおやけに尽つくすばかりを強要きやうようす

戦たたかい止やんで人々ひとびとは国くにに尽つくすを後悔こうかいし

なおさら大おおきな誤あやまりの

自じ分のためだと思おもいこむ

利己主義りこしゆぎ

教おしえ受うけずにつつしみを知らぬ人々ひとびと溢あふれたり

身口意の三業しんくういさんごう 三時の業報の理さんじごつぽうり

正ただしく信しんを学まなびなば互たがいの大だい事を損そこなわず

世よのため人ひとのためなりも

信心不二しんじんふに サツダ

限かぎりをつけて利りすること

無上意むじやうい 即心是仏そくしんぜぶつ

二に度どない命いのちの我われらなり欲よくを張はらずに我わがまま

せこんじじょううつつしみ調とえん

精進しやうじん 般若波羅蜜はんにやはらみつ

宮城県大崎市 瑞川寺住職 木村謙文